

YODOe-learning Box 2018年11月30日

大阪万博が決定しましたね(*´▽`*)。未来に向けた技術革新がさらに進むことでしょう。しかし年齢とともに技術革新について行くことが難しくなった昨今ですが、無視して生活することも難しい。大変な世の中です。

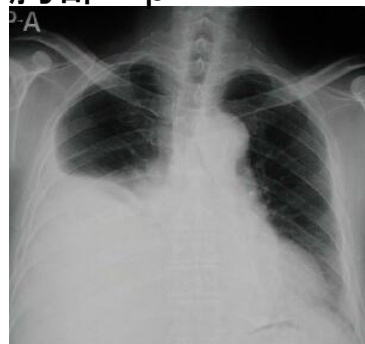
さて、今回は放射線科における技術革新のご紹介。すでにご存知の方も多いかと思いますが、当院では胸部のレントゲン撮影は座位での多い現状です。ストレッチャーにリクライニング機能がないため、これまでは車椅子に乗れない人についてはポータブルで撮影してもらっていました。



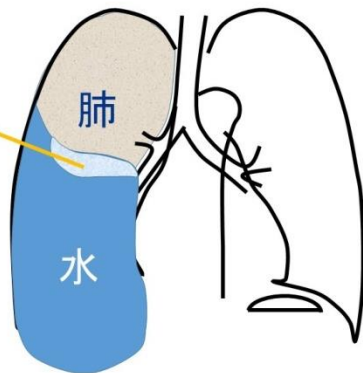
このような(上記)現状に、レントゲン技師の才川さんと北林さんが背もたれを作成してくれました!!

車椅子に座れない人でも、背もたれにもたれかかる状態が可能であれば、レントゲン室で座位で撮影できます。

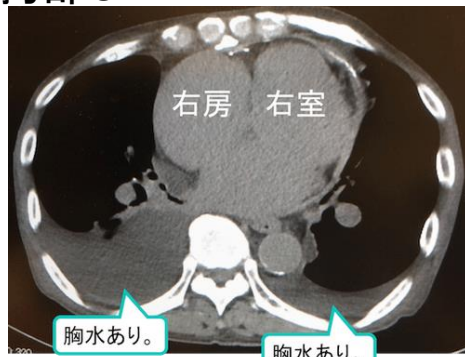
胸部X-p



圧迫されてつぶれた肺



胸部CT



胸水は、座位にすることで肺と綺麗に分かれて撮影できるため、胸水のたまりやすい透析患者や肺炎の患者はできるだけ座位で撮影したいのです。もちろんCTなら寝ていても綺麗に確認できるのですが、被曝量も多いため検査の回数は限られてしまいます。これからも、可能な限り座位でよろしくお願いします。

これらの一覧表は、看護部門およびもろもろフォルダのGYO-KAInewsから閲覧できます。
文責 上野